

(10) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-26969

(43) 公開日 平成8年(1996)1月30日

(51) Int. Cl. ⁵	識別記号	序内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K 7/48				
7/00	K			
	W			
	X			
35/78	ABF Q	8217-4C		

審査請求 未請求 請求項の数 2 F D (全 8 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願平6-186763

(22) 出願日 平成6年(1994)7月15日

(71) 出願人 390016997

株式会社大阪薬品研究所

大阪府豊中市東寺内町173番606号

(72) 発明者 有地 泉

大阪府豊中市東寺内町173番606号 株式会

社大阪薬品研究所内

(74) 代理人 弁理士 清原 義博

(54) 【発明の名称】 化粧料組成物

(57) 【要約】

【構成】 コガネバナ (*Scutellaria baicalensis* GEORGI) の粉碎物及び／又はその抽出物と、カワラヨモギ (*Artemisia capillaris* Thunberg.) 及び又はその近縁種の乾燥粉碎物またはその抽出物を含有する。

【効果】 アレルギー性疾患の肌に使用しても炎症を悪化させることなく、しかもアトピー性皮膚炎や蕁麻疹等のアレルギー性疾患を低減し、さらにはニキビ、吹き出物等の症状の改善や防止に効果を持つ美肌効果に優れた化粧料である。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 コガネバナ (*Scutellaria baicalensis* GEORGI)の粉砕物及び／又はその抽出物と、カワラヨモギ (*Artemisia capillaris* Thunberg.)及びまたはその近縁種の乾燥粉砕物又はその抽出物を含有する化粧料組成物。

【請求項2】 前記コガネバナ (*Scutellaria baicalensis* GEORGI)の粉砕物及び／又は抽出物がフラボノイド化合物を含有してなることを特徴とする請求項1乃至2に記載の皮膚外用剤。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は化粧料組成物に係り、その目的は特にアレルギー症肌の人を使用しても炎症を悪化させることなく更にアレルギー症を低減させることができるとともに健康な肌の人を使用しても化粧料として美肌効果が高い化粧料組成物を提供することにある。

【0002】

【従来の技術】社会生活が変化するに従ってアトピー性皮膚炎等の皮膚アレルギー症状を訴える人々が多くなり、特に顔面部に生じた湿疹症状は化粧年齢の女性を悩ます最大の要因となっている。一般にアレルギーは、アレルギーとの反応でマスト細胞からヒスタミン、ブラディキニン、SRS-Aなどの化学伝達物質が放出され、これらの物質が周囲の組織を障害して生じる生体反応と解されており、前記した化学伝達物質の放出を抑制する、即ち化学伝達物質の一つであるSRS-Aはアラキドン酸代謝物の一つである5-HETEを前駆体とする物質で、この5-HETEの産出を抑制することにより、アトピー性皮膚炎をはじめ、じんましん等のアレルギーを防止することができる。

【0003】アトピー性皮膚炎は滲出傾向の強い鮮紅色斑が主に認められる痒みの著しいアレルギー性疾患の一つである。このようなアトピー性皮膚炎の人の化粧法はなく、先ずアトピー性皮膚炎を治療し、治療後化粧していた。アトピー性皮膚炎の人は化粧料に反応して炎症が生じるからである。その治療法としては、従来よりヒスタミン加免疫グロブリン、強力ミノファゲンC等を用いた皮下注射や、副腎皮質ホルモンからなる外用剤が使用されていた。アレルギー性疾患を持たない健康な思春期の男女でも、ニキビ、吹き出物等が見られ、美肌化を阻害する。ニキビは、皮膚表面に存在する黄色ブドウ球菌staphylococcus aureusの作用と関係が深いと解されている。従って、ニキビの治療法としては、皮膚表面における黄色ブドウ球菌staphylococcus aureus等の増殖を防止する目的でヘキサクロロフェン、トリクロロカルバニリド、イルガザン等の抗菌剤を配合した外用剤が主として用いられる。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】アトピー性皮膚炎等の

アレルギー疾患の皮膚治療には副腎皮質ホルモンが施用され効果が多大に期待できる反面副作用が生じ、肌ケロイド状になる、好ましくない課題が存在し、その使用に危険性が伴うという課題が存在した。そこで、業界では皮膚に対する安全性が極めて高く、アトピー性皮膚炎等のアレルギー疾患の肌に施用しても炎症を生じることなくしかもアトピー性皮膚炎等のアレルギー疾患を低減させ且つ副作用がなく、しかもニキビ、吹き出物等皮膚疾患の症状の肌にも施用して、肌障害の緩和や増悪の防止に効果があり、且つ美肌化を目的に健康皮膚に化粧品としても好適に使用することのできる化粧料組成物の提供にある。

【0005】

【課題を解決するための手段】この発明ではこの発明ではコガネバナ (*Scutellaria baicalensis* GEORGI)の粉砕物及び／又はその抽出物と、カワラヨモギ (*Artemisia capillaris* Thunberg, (Compositae))の乾燥粉砕物又はその抽出物を含有する化粧料組成物を提供することにより、前記従来の課題を悉く解消する。

【0006】

【発明の構成】以下、この発明の化粧料組成物の構成について詳述する。この発明においては、コガネバナ (*Scutellaria baicalensis* GEORGI)の粉砕物及び／又はその抽出物が必須成分の一つとして用いられる。ここで、コガネバナ (*Scutellaria baicalensis* GEORGI)とは、中国、シベリア東部原産のシソ科 (Labiatae)の多年草で、高さは約1m、夏に茎の上部に紫色の花が一方を向いて穂状に集まって咲く植物で、根部の乾燥物は「オウゴン (*Scutellaria Radix*)」と呼ばれ、古来より漢方薬の一種として用いられている。

【0007】この発明において用いられるコガネバナ (*Scutellaria baicalensis* GEORGI)の部位としては、葉部、茎部、花部等の地上部、或いは根部等の地下部、または全草等いずれの部位でも使用することができるが、より好ましくは茎部の低部位、特に黄色味を帯びた部位又は根部が、有効成分を多量に含んでいるため望ましく使用される。また、用いるコガネバナ (*Scutellaria baicalensis* GEORGI)としても、自生する非乾燥状態のものでも、或いは「オウゴン」と称され、漢方薬の一つとして市販されているものでもいずれのものでも好適に使用できる。

【0008】このようなコガネバナ (*Scutellaria baicalensis* GEORGI)は乾燥、粉砕されて、この発明の必須成分の一つとして使用される。或いは、その抽出物が必須成分の一つとして使用される。コガネバナ (*Scutellaria baicalensis* GEORGI)の抽出物を用いる場合は、必要に応じ、乾燥又は粉砕したものを、通常の植物抽出に用いる適宜な溶媒で抽出して得られるものが特に限定されることなく、好適に使用することができる。

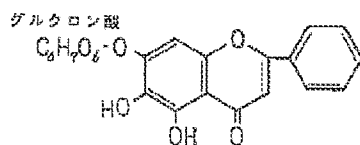
【0009】具体的に抽出溶媒としては、水、メタノー

ル、エタノール、イソプロパノール、イソブタノール、
n-ヘキサノール、メチルアミルアルコール、2-エチ
ルブタノール、n-オクタノール等のアルコール類、エ
チレングリコール、エチレングリコールモノメチルエー
テル、エチレングリコールモノエチルエーテル、プロピ
レングリコール、プロピレングリコールモノメチルエー
テル、プロピレングリコールモノエチルエーテル、トリ
エチレングリコール、1,3-ブチレングリコール、ヘ
キシレングリコール等の多価アルコール又はその誘導
体、アセトン、メチルアセトン、メチルエチルケトン、
メチルイソブチルケトン、メチル-n-プロピルケトン
等のケトン類、酢酸エチル、酢酸イソプロピル等エステ
ル類、エチルエーテル、イソプロピルエーテル、n-ブ
チルエーテル等のエーテル類などの極性溶媒の一種又は
二種以上の混合溶媒が好適に使用することができるが特
に限定はされない。或いは、石油エーテル、n-ヘキサ
ン、n-ペンタン、n-ブタン、n-オクタン、シクロ
ヘキサン等の脂肪族炭化水素類、四塩化炭素、クロロホル
ム、ジクロロメタン、トリクロロエチレン、ベンゼ
ン、トルエン等の非極性溶媒の一種又は二種以上の混合
溶媒も好適に使用することができる。さらには前記した
極性溶媒と非極性溶媒との混合溶媒もこの発明において
は特に限定されることなく好適に使用することができ
る。

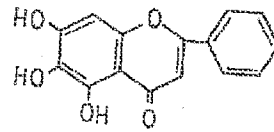
【0010】コガネバナ (*Scutellaria baicalensis* GE
ORGI)の抽出物について、より具体的に詳述すると、茎
部の低部位、特に黄色味を帯びた部位及び根部には、こ
の発明の有効成分の一つとされるフラボノイド化合物が
多数含有されている。すなわち、次式1 (化1) で示さ
れるバイカリン、次式2 (化2) で示されるバイカレイ
ン、次式3 (化3) で示されるクリシン、次式4 (化
4) で示されるオーゴニン、次式5 (化5) で示される
オーゴニン-7-O-D-グルクロニド、次式6 (化
6) で示されるスカルカプフラボン、次式7 (化7) で
示される2', 5, 5', 7-テトラヒドロキシ-6',
8-ジメトキシフラボン、次式8 (化8) で示される
(2S)-2', 5, 6', 7-テトラヒドロキシフラボ
ン、次式9 (化9) で示される(2R, 3R)-2',
3, 5, 6', 7-ペンタヒドロキシフラボンなどのフ
ラボノイド化合物が茎の低部位及び根部に多量に含有さ
れており、この発明においては前記フラボノイド化合物
のうち一種又は二種以上を精製、単離して必須成分の
一つとして使用することもできる。

【0011】

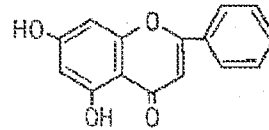
【化1】



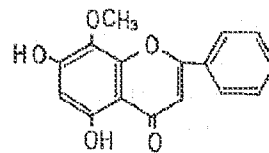
【化2】



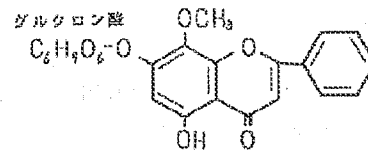
【化3】



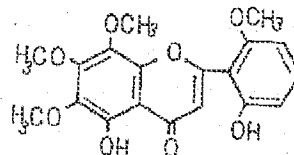
【化4】



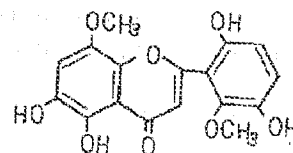
【化5】



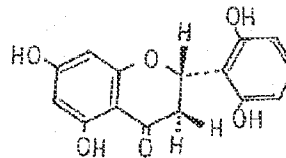
【化6】



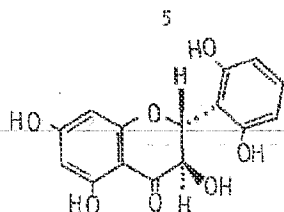
【化7】



【化8】



【化9】



【0012】また、この発明においては前記コガネバナ (*Scutellaria baicalensis* GEORGI)の粉砕物及び／又はその抽出物とともに配合するカワラヨモギ (*Artemisia capillaris* Thunberg) 及びまたはその近縁種の乾燥粉砕物又はその抽出物は次の様に調製する。この発明において使用するカワラヨモギ (*Artemisia capillaris* Thunberg) とはキク科の多年草で、その花穂及び帯花枝葉の乾燥物が漢方薬名茵陳蒿として利尿剤、利胆剤としても知られている。この発明において使用するカワラヨモギ (*Artemisia capillaris* Thunberg) の近縁種とはキク科の多年草のうちオトコヨモギ (*Artemisia japonica* Thunberg)、ハマオトコヨモギ (*Artemisia littoralis* Kitam.)、ハマヨモギ (*Artemisia fukudo* Makino) を挙げることができる。この発明においては、この様なカワラヨモギ (*Artemisia capillaris* Thunberg) 及びまたはその近縁種の花穂及び帯花枝葉に限定されず、地上部、地下部或いは全草が使用でき、これらの乾燥粉砕物、凍結乾燥粉砕物を使用できる。

【0013】またこれらの抽出物を用いる場合は、必要に応じ、乾燥又は粉砕したものを、通常の植物抽出に用いる適宜な溶媒、即ちコガネバナ (*Scutellaria baicalensis* GEORGI)の抽出の際に用いられるものが特に限定されることなく、好適に使用することができる。

【0014】この様なカワラヨモギ (*Artemisia capillaris* Thunberg) 及びまたはその近縁種の乾燥粉砕物あるいは抽出物はβ-ヒネン、スコボレチン、エスケレチン6,7-ジメチルエーテル、カピリン、カピレン、カピリオネ等の精油成分がふくまれている。この発明において、カワラヨモギ (*Artemisia capillaris* Thunberg) 及びまたはその近縁種の乾燥粉砕物あるいは抽出物の配合割合は、乾燥粉砕物として0.01から5.0%、抽出物として0.001から0.5%の範囲で配合すればよい。抽出液を減圧下で濃縮し、流エキス、軟エキス、乾燥エキスとして用いることができる。

【0015】この発明においては、前記したコガネバナ (*Scutellaria baicalensis* GEORGI)の粉砕物及び／又はその抽出物と、カワラヨモギ (*Artemisia capillaris* Thunberg) 及びまたはその近縁種の乾燥粉砕物又はその抽出物とを必須成分とするが、ここでこれら必須成分の配合比率としては、それぞれ化粧料組成物中0.001~1.0%、より好ましくは0.02~0.5%程度とされるのが望ましい。また、コガネバナ (*Scutellaria baicalensis* GEORGI)の粉砕物及び／又はその抽出物と、カワラヨモギ (*Artemisia capillaris* Thunberg) 及びまたはその近縁種の乾燥粉砕物又はその抽出物との比率は10~1:1~10、より好ましくは5:5程度とされるのが望ましい。この理由は、コガネバナ (*Scutellaria baicalensis* GEORGI)の粉砕物及び／又はその抽出物に対して、カワラヨモギ (*Artemisia capillaris* Thunberg)等の乾燥粉砕物が1/1未満であると、この発明の目的とする美肌効果を発現することができず、一方、粗カワラヨモギ抽出物の配合が、コガネバナ (*Scutellaria baicalensis* GEORGI)の粉砕物及び／又はその抽出物に対して、10/1を超えて配合されてもその配合例に比例した効果を得ることができず、いずれの場合も好ましくないからである。

【0016】この発明において、前記した必須成分は、そのまま化粧料組成物として使用することもできるが、より好ましくは公知の賦形剤や希釈剤、或いは他の任意の配合材料とともに混合して顆粒、エマルジョン、溶液、懸濁液などの剤形に調製して使用される。この発明において、最終形態である化粧料組成物としては、アレルギー症の肌の化粧料としてもあるいはニキビ、吹き出物等の症状の悪化の防止や症状の改善、さらにはニキビ痕の残った肌の美肌化等を目的とした化粧品であってもよく、いずれの形態も任意に採用することができる。しかも、これら剤形に調製する際、従来より公知のイオウ製剤やサルチル酸、レゾルシン等の角質溶解剤や、ヘキサクロロフェン、トリクロロカルバニリド、イルガサン、クロルヘキシジン等の抗菌剤等を、この発明の効果を増大させる範囲で適宜併用して用いることもできる。さらに、皮膚保湿剤として公知のヒアルロン酸や加水分解コラーゲン、さらには美白剤として公知のビタミンC又はその誘導体等も適宜任意に併用することができる。

【0017】具体的に化粧品としては、ローション、乳液、クレンジングクリーム、マッサージクリーム、エモリエントクリーム等クリーム類、パック類等の基本化粧品、或いはファンデーション、ほほ紅等メイクアップ化粧品等が好適な実施例として例示される。また薬用化粧品としては、石けん、洗顔クリーム、ニキビの改善・予防を目的としたローションや乳液、パック、ボディローション、入浴剤等が、さらに医薬品としては軟膏、クリーム等が好適な実施例として例示することができるが、この発明において特に限定はされない。

【0018】

【実施例】

(1) コガネバナ (*Scutellaria baicalensis* GEORGI) 粉砕物の調製

サンプル (A)

コガネバナ (*Scutellaria baicalensis* GEORGI)全草の非乾燥物50gを細切りし、この細切物をメタノールで80℃にて1~2時間加熱下で抽出し、この抽出操作を4回繰り返した後、得られた抽出物を濾過し、濾液をさらに減圧濃縮して乾固して、約10gの抽出物を得た。

サンプル(B)

コガネバナ (*Scutellaria baicalensis* GEORGI) 茎部と根部とを乾燥、粉碎した後、メタノールで60℃にて1～2時間加熱下で抽出し、この抽出操作を4回繰り返した後、得られた抽出物を濾過し、濾液をさらに減圧濃縮して乾固物とした。

サンプル(C)

前記サンプル(C)で得られた抽出物をカラムクロマトグラフィーにて4つのフラクションに分離した(C-1, C-2, C-3, C-4)。各フラクションをそれぞれ減圧濃縮して乾固物とした。(尚、各フラクションについて高速液体クロマトグラフィーを用いて同定したところ、C-1はバイカリン、C-2はオーゴニン、C-3はオーゴニン7-O-β-D-グルクロニド、C-4はバイ*

* カレインであることが同定された。)

サンプル(D)

コガネバナ (*Scutellaria baicalensis* GEORGI) 根部を乾燥した後、粉碎して粉碎物とした。

【0019】(2) カワラヨモギ抽出物の調製 サンプル(E)

九州宮崎産カワラヨモギの1年未満の若葉を及び頭花を乾燥し、この乾燥粉碎物を使用した。更に、この乾燥物1Kgを水-エチルアルコール系30% 溶液20L中に浸漬し、1昼夜室温で放置し、濾過した後、1Lに減圧濃縮して、褐色のワセリン様のエキスを得た。

(実施例1～5及び比較例1～3)

(実施例1)

ローション	重量%
コガネバナ抽出物〔サンプル(B)〕	0.02
カワラヨモギ抽出物〔サンプル(E)〕	0.02
d-カンフル	0.02
l-メントール	0.05
1,3-ブチレングリコール	5.0
エタノール	15.0
香料	適量
精製水	残部
	100.0

(実施例2)

クレンジングクリーム	重量%
コガネバナ抽出物〔サンプル(A)〕	0.02
カワラヨモギ抽出物〔サンプル(E)〕	0.03
軽質流動パラフィン	35.0
ミツロウ	8.0
バルミチン酸セチル	3.0
ラノリン	1.0
セスキオレイン酸ソルビタン	2.0
ポリオキシエチレン(20)ソルビットミツロウ	4.5
防腐剤・酸化防止剤	適量
70%ソルビトール	4.0
香料	適量
精製水	残部
	100.0

※40※【0020】(実施例3)

バック剤	重量%
コガネバナ粉碎物	0.04
〔サンプル(C)にて得られたバイカレインと オーゴニンとの1:1混合物〕	
カワラヨモギ抽出物〔サンプル(E)〕	0.02
ポリビニルアルコール	14.0
酢酸ビニル樹脂エマルション	10.0
エチルアルコール	7.0
カオリン	10.0
グリセロール	1.0

9	10
バラベン	0.01
香料	適量
精製水	残部
	100.0

【0021】(実施例4)

ボディシャンプー	重量%
コガネバナ粉碎物	0.06
〔サンプル(C)にて得られたバイカレインと オーゴニン7-O-グルクロニドとの1:1混合物〕	
カワラヨモギ粉末〔サンプル(E)〕	0.05
ラウリル硫酸ナトリウム	10.0
ラウリルスルホコハク酸ナトリウム	20.0
ラウリルジエタノールアミド	4.0
加水分解コラーゲン	1.0
ジステアリン酸エチレングリコール	1.0
エデト酸四ナトリウム四水塩	0.1
アラントイン	0.01
塩化リゾチーム	0.01
香料	適量
精製水	残部
	100.0

【0022】(実施例5)

軟膏	重量%
コガネバナ抽出物〔サンプル(D)〕	0.08
カワラヨモギ抽出物〔サンプル(E)〕	0.05
グリセリン	10.0
ミツロウ	20.0
オリーブ油	4.0
香料	適量
	100.0

【0023】(比較例1)

ローション	重量%
コガネバナ抽出物〔サンプル(B)〕	0.02
d-カンフル	0.02
l-メントール	0.05
1,3-ブチレングリコール	5.0
エタノール	15.0
香料	適量
精製水	残部
	100.0

【0024】(比較例2)

ローション	重量%
カワラヨモギ粉末〔サンプル(E)〕	0.02
d-カンフル	0.02
l-メントール	0.05
1,3-ブチレングリコール	5.0
エタノール	15.0
香料	適量
精製水	残部
	100.0

【0025】(比較例3)

ローション	重量%
d-カンフル	0.02
l-メントール	0.05
1,3-ブチレングリコール	5.0
エタノール	15.0
香料	適量
精製水	残部
	100.0

【0026】

【試験例】以下、試験例を挙げてこの発明に係る皮膚外用剤の効果を一層明らかなものとする。

【0027】(試験例1)前記実施例1及び比較例1〜3で調製されたローションを、(A)ニキビ症状のひどい13〜17才の男女20名、(B)アトピー性皮膚炎のひどい17〜22才の女性20名に、それぞれ朝夕1日2回継続して2週間顔に施用した。ローション塗布2週間後の肌の状態を問診により評価した。症状がほとんど消失してしまったものを◎、症状の改善が認められたものを○、症状が悪化したものを×とした。この結果を表1に示す。

【0028】

【表1】

		(A)	(B)
実施例1	◎	9	11
	○	11	9
	×	0	0
比較例1	◎	0	1
	○	7	17
	×	13	2
比較例2	◎	0	0
	○	10	15
	×	10	5
比較例3	◎	0	0
	○	5	0
	×	15	20

【0029】(試験例2)

黄色ブドウ球菌に対する抗菌活性

前記実施例6〜10及び比較例4〜7の各試料をそれぞれエタノールで10倍量に溶解し、そのうちの0.05mlを内径8mmの濾紙ディスクに含浸させ、被験菌として黄色ブドウ球菌staphylococcus aureus 269Pを接種分散させた寒天平板(ハートインヒュージョン寒天培地、日水製薬(株)製)上に接着し、35℃で24時間培養した。培養終了後、濾紙の周囲の発育阻止円の大きさを算出した。この結果を表2に示す。

10 【0030】

【表2】

	阻止円の直径(mm)
実施例6	10.3
実施例7	15.7
実施例8	13.4
実施例9	12.4
実施例10	14.5
比較例4	—— ※1
比較例5	——
比較例6	——
比較例7	——

※1：阻止円を形成しなかったもの

【0031】(試験例3)前記実施例6〜10及び比較例4〜7で得られた各試料の5-HETEの産出阻害活性を試験した。ウイスター系雄ラットを使用し、このラット腹腔内多核白血球をHEPS-生食緩衝液(pH 7.4)で洗浄し、同緩衝液に懸濁、超音波処理を行なったものをアラキドン酸代謝の酵素液として用いた。この血小板ホモジネイトと前記実施例及び比較例とのサンプルをそれぞれ表3に示す濃度に調製し、37℃で5分間、保温した。その後、[1-¹⁴C]アラキドン酸

(0.05μCi)を加え、5分間インキュベイトした。終了後、反応をギ酸で止め(pH3)アラキドン酸代謝物を酢酸エチルで抽出し、シリカゲル薄層クロマトグラフィー(TLC)で分離して定量した(展開液：石油エーテル：エーテル：酢酸=50：50：1、v/v、TLCはメルク5748)。放射活性物質はオートラジオグラフィで検出し、そのスポットを切り取り、放射活性体を液体シンチレーションカウンターで定量した。

(尚、実施例及び比較例のサンプルを使用しなかったものを対照例とした。)

この結果を表3に示す。(尚、表3中に示すHHT(12-ヒドロキシヘプタデカトリエン酸)はシクロオキシゲナーゼを経て代謝される5-ヒドロキシエイコサテトラエン酸(5-HETE)である。

【0032】

【表3】

	濃 度	生 成 物	
		HHT	5-HETE
実施例6	10%	14.7 ± 3.8	19.3 ± 4.2
	5%	22.9 ± 2.3	29.5 ± 1.2
実施例7	10%	9.8 ± 4.1	10.7 ± 3.1
	5%	14.1 ± 1.9	19.2 ± 2.0
実施例8	10%	12.5 ± 2.7	14.4 ± 5.3
	5%	17.3 ± 2.6	20.1 ± 1.9
実施例9	10%	13.1 ± 4.1	16.7 ± 3.1
	5%	18.6 ± 1.9	19.2 ± 2.0
実施例10	10%	10.1 ± 2.2	14.7 ± 3.1
	5%	15.9 ± 1.9	17.2 ± 2.0
比較例4	10%	39.1 ± 3.1	39.9 ± 4.4
	5%	43.2 ± 3.8	47.4 ± 4.2
比較例5	10%	30.1 ± 2.2	32.8 ± 3.4
	5%	38.9 ± 1.8	37.4 ± 1.2
比較例6	10%	29.7 ± 2.4	30.1 ± 1.4
	5%	34.3 ± 3.3	39.5 ± 2.5
比較例7	10%	45.3 ± 2.0	48.6 ± 1.4
	5%	52.7 ± 3.3	60.9 ± 2.5
対照例	—	100.0 ± 0	100.0 ± 0

*【0033】

【発明の効果】以上詳述した如く、この発明はコガネバナ (*Scutellaria baicalensis* GEORGI)の粉碎物及び／又はその抽出物と、カワラヨモギ (*Artemisia capillaris* Thunberg.)及びまたはその近縁種の乾燥粉碎物又はその抽出物を含有する化粧料組成物であるから、前記試験例の結果からも明らかな如く、アレルギー疾患を持つ肌であっても炎症を生じさせることなくしかもアレルギー疾患を低減させ、さらにはニキビ、しみ、かゆみ等の肌あれ防止に極めて有効であるという優れた美肌効果を奏する。

20

30

*

フロントページの続き

(51)Int. Cl.⁶

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

A 61 K 35/78

A D A T 8217-4C

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-026969

(43)Date of publication of application : 30.01.1996

(51)Int.Cl. A61K 7/48
A61K 7/00
A61K 35/78
A61K 35/78

(21)Application number : 06-186763

(71)Applicant : OSAKA YAKUHIIN KENKYUSHO:KK

(22)Date of filing : 15.07.1994

(72)Inventor : YUCHI IZUMI

(54) COSMETIC COMPOSITION

(57)Abstract:

PURPOSE: To obtain the cosmetic capable of reducing allergic diseases such as atopic dermatitis and urticaria without worsening inflammation even when used for the skin of an allergic disease, having effects for improving and preventing the syndromes such as acne and skin eruptions, and excellent in the skin-beautifying effect.

CONSTITUTION: The cosmetic composition contains the finely ground product and/or the extract of *Scutellaria baicalensis* GEORGI, and the dry ground product and/or the extract of *Artemisia capillaris* Thunberg, and/or its relative.